（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和７年３月 31 日

県立茅ケ崎高等学校長（定時制）

令和６年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和6年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 21 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月７日実施）	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・生徒一人ひとりの能力やニーズを踏まえながら、生徒の「生きる力」を育む教育課程の編成に取り組む。 ・基礎学力の確実な定着を図るために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を組織的に推進する。	・生徒の「主体的に学習に取り組む態度の向上および定着」に向けて、授業改善を目的とした計画的・組織的な取組を充実させる。また本校の生徒にどのような授業を展開すると効果的に「確かな学力の向上および定着」へ導けるのか、全体で検討し共有する。	・個別最適な学びの実現に向けた教育課程編成と募集停止に伴う生徒数及び教職員数減少を見据えたカリキュラムの検討を行う。 ・授業研究会や日頃の情報交換などを通じて、生徒が主体的に学習に取り組み、基礎学力の定着に向けたＩＣＴの活用や教材の研究を行う。	・「主体的に学習に取り組む態度」について、信頼度の高い評価方法を確立させて実際に導入することができたか検証する。 ・生徒が記入する授業の振り返りシート、定期試験の結果、生徒による授業評価アンケートの回答結果等から授業改善の取組が反映されているか検証する。	・授業評価の回答結果を分析したところ、多くの質問項目について、「とてもよく当てはまる」「やや当てはまる」の合算回答が前年度より平均 7.5 ポイント増えていた。一方で「授業の中で身に付いたことを実感することができた」という質問に対しては前年度比 9.9 ポイント減少していた。 ・生徒数及び教職員数減少を見据えたカリキュラム及び年間行事予定を策定することができた。	・授業評価の回答結果から、各教科において、これまで以上に「課題解決型」の授業を展開できるよう組織的にして、授業で習得した知識・技術を活用できる機会を増やす必要がある。 ・生徒の学習能力差が顕著になりつつあることから、今後も個別最適な学びの実現に向け、組織的な取り組みを図ることが必要である。	・授業評価結果から多くの項目で改善が見られ、主体的な学びが定着しつつある一方、「授業で身に付いたことを実感できた」の項目が減少している点は課題である。 ・生徒数、教職員数の減少を見据えたカリキュラムの再編が進んでいる点は評価できる。 ・生徒の学習能力差が顕著になりつつあるとのことだが、適切な学びができるような支援をお願いしたい。	・授業評価の回答結果より、生徒の「主体的に学習に取り組む態度の向上及び定着」の改善が見られた。しかし、「授業で身に付いたことを実感できた」の項目が減少している点は改善の余地がある。 ・生徒数及び教職員数減少を見据えたカリキュラムの再編や年間行事予定の精選を行い、個別最適な学びの実現を図った。	・引き続き、授業研究会を行い、個別最適な学びの実現に向けた取組を組織的に行う。 ・基礎学力の定着や「課題解決型」の授業展開を模索することで、授業で修得した知識・技能を活用できる授業改善のさらなる推進を行う。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	・基本的生活習慣の確立と、社会的規範意識の醸成を図り、社会性を養う。 ・自己肯定感、自己有用感を高める。 ・個性や多様性を尊重し合える豊かな心を育成する。	・生徒が規範意識を持って学校生活を送り、安全で安心できる学校づくりを生徒と教職員が一体となって推進していく。 ・個々の生徒が抱えている困りの解消に向けた組織的支援相談体制のさらなる強化を図る。	・校内外の巡回を年間通じて組織的に行い、安全で安心できる学習環境を維持するとともに、挨拶・会話を通して相互の信頼関係の深化を図る。 ・担任、養護教諭、SC、SSW との連携を深め、個々の生徒に向き合い、課題に対し丁寧な指導を継続する。	・授業や学校行事など、校内外の活動において社会のルールに則り、自覚ある行動をとることができたか。 ・生徒一人ひとりの困りに寄り添い、意欲的に学習に取り組める安心・安全な「学びの場」を提供することができたか。	・近隣からの苦情やトラブルなど無く、社会の一員として自覚ある行動がとれる生徒を育成することができた。 ・SC、SSW、CO、養護教諭、外部機関と連携を密に図り、生徒一人ひとりの困りの解消に努めたが、すべてを解消するには至らなかった。	・引き続き校内外の巡回、日々の生徒への声掛けなどを通して、生徒が安全で安心できる学校作りに邁進する。 ・外部機関との連携をさらに強化し、生徒一人ひとりの個別の困りの解消に向けた組織的な支援体制の構築を図る。	・巡回や声掛けを通じて、生徒が安心して学校生活を送ることができた点は評価できる。 ・外部機関との連携により個別支援を強化し、生徒の「困り」の解消に努めた点は評価できるが、課題としてすべての「困り」の解消には至っておらず、さらなる支援体制の充実が必要である。	・巡回や声掛けを年間通して、組織的に行ったことで、生徒が安心して学校生活が送れる環境を構築した。 ・外部機関との連携を強化したことで、生徒個別の困りの解消を実現することができたが、すべての困りの解消には至らなかった。	・生徒自身が主体的に規範意識を高める活動の導入や、社会性を育む機会の拡充を図る。 ・引き続き、巡回や声掛けを行うとともに、外部機関とのさらなる連携強化を行い、すべての生徒の困りの解消の実現を目指す。
3	進路指導・支援	・学習活動を通じて，生徒の基礎的・汎用的能力を段階的に育成し、生徒一人ひとりが自己の生き方、あり方を考え、主体的に希望の進路を実現できるよう支援体制を充実させる。	・自らの進路や自己実現に向けて、主体的に取り組むことのできる態度を育成する。 ・進路実現に向けた情報と学習機会の提供を組織的に行っていく。	・オープンキャンパスやインターンシップへの参加を促し、生徒が主体的に進路実現に向けた行動がとれるよう支援する。 ・全学年の特性に応じたキャリアガイダンスを計画的に実施していく。	・生徒が積極的に見学・体験等に参加できるよう情報提供することができたか。 ・卒業生や地域の外部資源を有効活用し、企画内容を工夫したキャリアガイダンスを実施することができたか。	・インターンシップに２年生２名４事業所、オープンキャンパスに３年生２名５校に参加した。 ・昨年卒業した生徒の進路先（就職２、進学１）を招いて、有益なキャリアガイダンスを行うことができた。	・より多くの生徒に、学校見学やインターンシップに参加できるよう、情報提供方法を工夫する。 ・企業の人事担当者様や卒業生の有益な話が聞けるキャリアガイダンスの内容を拡大して実施する。	・インターンシップやオープンキャンパスへの参加実績があり、卒業生を招いたキャリアガイダンスも有益だった点は評価できる。今後の課題として、より多くの生徒が進路体験に参加できるよう、情報提供の工夫や参加しやすい環境整備が必要である。	・オープンキャンパスやインターンシップへの参加を積極的に促した結果、生徒のキャリアに対する意識を向上させることができた。 ・卒業生を招いたキャリアガイダンスは生徒の進路意識の向上に特に有益であった。	・より多くの生徒が進路体験に参加できるよう、情報提供の工夫や参加しやすい環境整備を検討する。 ・生徒個々の興味や適性に応じた個別進路相談の充実や地域企業や卒業生との交流機会をさらに拡大する。

	視点	４年間の目標 （令和6年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月７日実施）	総合評価（３月 21 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	・生徒が持続可能な社会の担い手として活躍できるよう、学校を中心に家庭と地域が一体となって協働できる具体的な方策を検討・導入する。	・地域との連携を深化させ、生徒の人間関係形成能力の向上を図り、社会参画の意欲と態度を育成する。 ・地域の資源を有効に活用し、生徒の防災や安全に対する意識の向上を図る。	・地域貢献活動に加え、社会見学を新規に設定し、これらの行事を通して社会と関わることへの意識を向上させる。 ・警察や保健所、企業と協働し、交通安全、防災、薬物乱用防止など、今日的課題に対する講演会を開催する。	・行事を通して、生徒が社会の一員であることを自覚し、行動することができたか。 ・地域との協力関係を築くことができたか。また、地域の教育力を活用することができたか。	・校外での学校行事における公共交通機関や訪問施設の利用を通して社会との関わりを持たせることができた。 ・交通安全教室や薬物乱用防止講演会など、市役所、警察、保健所などの外部資源を活用することができた。	・生徒減、募集停止に向けた今後の学校行事の見直しの中で、保護者や地域の方々との関わりをいかに深めていくかが課題である。 ・今後も地域資源を有効に活用し生徒が安全・安心できる学校作りに努める。	・社会見学や講演会を通じて、生徒が社会との関わりを体験し、地域資源を有効に活用できた点は評価できる。 ・交通安全教室や薬物乱用防止講演会が生徒の意識向上につながったことは成果である。 ・今後は募集停止を見据え、保護者や地域との関わりを深める工夫が必要である。	・地域貢献活動に加え、社会見学を実施したことにより、生徒の社会と関わることへの意識を向上させた。 ・生徒数、募集停止に向けた今後の学校行事の精選や保護者との関わり、地域資源の有効的な活用をさらに深めていくかが課題である。	・引き続き交通安全教室や薬物乱用防止講座の内容を充実させ、今日的課題に対する意識の向上を図る。 ・地域ボランティア活動の充実や地域住民との交流イベント等を検討し、生徒の社会参画意識をさらに高めていく。
5	学校管理 学校運営	・常に安心安全で快適に学べる学習環境を維持する。 ・職員が一人ひとりの生徒に向き合える環境を整え、働き方改革をより促進する。	・各学年において清掃活動をこれまで以上に充実させる取組を実施し、学習環境に対する意識を向上させる。 ・各分掌で担当する個々の業務内容を新着任者でも滞りなく対応できるようマニュアルを作成する。	・定期的に校内・校外の清掃活動を行い、生徒の学習環境に対する意識を向上させる。 ・夜間時の防災体制や不審者侵入時における校内体制について改善を図る。 ・職員数減少を見据えた業務の精選、簡素化を行う。	・アンケート等を実施して生徒の学習環境に対する意識を向上させることができたか検証する。 ・防災体制や不審者侵入時における校内体制について具体的な改善策が図られたか検証する。 ・各分掌で担当する業務の精選、簡素化を実施することができたか検証する。	・各学年で定期的に校内・校外の清掃活動を行い、学習環境に対する意識を向上させることができた。 ・各分掌で担当する業務の精選、簡素化を図ることができた。 ・防災体制や不審者侵入時における校内体制について意識を高めることができた。	・生徒数減少に伴い教育振興費等の予算が減少している。限られた予算で教育活動をどのように展開していくか引き続き検討する必要がある。 ・転落防止の措置により教室の窓の清掃が困難になり、汚染が目立っている。	・定期的な清掃活動や防災体制の改善により、生徒の学習環境への意識向上が図られた点は評価できる。 ・業務の精選・簡素化により、新任者でも対応可能な環境整備が進んだことも成果である。 ・限られた予算内で教育活動を効果的に実施する工夫が必要である。	・定期的に校内・外の清掃活動を行ったことで、生徒の学習環境に対する意識を向上させた。 ・各分掌の業務を精選、簡素化したことで、新任者でも対応可能な環境を整備した。 ・限られた予算内で効果的に教育活動を展開していくか引き続き検討する必要がある。	・生徒の主体性をさらに高めるために、清掃活動への役割分担や、防災訓練への生徒参画を検討する。 ・夜間時における防災体制や不審者侵入時における校内体制について引き続き検討を行う。 ・業務の精選、簡素化をさらに進め、教職員数減に対応できるように校内体制を整備する。